

Ⅲ まとめ

今回の海外調査で訪れた、コロンビアのボゴタ、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ、ドイツのシェーナウ、いずれの都市も困難な課題に直面し、挫折を味わいながらも、あきらめることなく果敢に挑戦を続け、未だ課題が残る面もあるかもしれないが、かなりの改善にこぎ着けたり、将来につながる取り組みを開始したりしている。

東京にもさまざまな課題がある中で、今回は、長年の課題である交通政策と、普及促進が叫ばれて久しく、東日本大震災を契機としてさらに重要性・切迫性が高まっている再生可能エネルギーの導入促進について調査した。

まず、交通政策については、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた輸送計画上の課題に対応するとともに、その後の都民生活にも役立つレガシーとするために、交通改革に取り組んだ先進的なボゴタの取り組み、そしてオリンピック・パラリンピックの開催に向けて公共交通網の整備に取り組むリオ・デ・ジャネイロを視察した。

いずれの都市も、その取り組みをそのまま東京に取り入れるという趣旨ではない。

しかし、東京も含む既存の都市を研究してまちづくりを行い、世界的にも都市計画の成功例として認識されているクリチバを研究して取り組んだ、ボゴタの事例から学んだことを、今後、将来の東京の交通政策に還元していくことができれば、まさに人類の英知を結集した政策が、東京において実現を見ることとなる。

また、都においても検討が進んでいるBRT導入、そして従来から課題とされている公共交通の利用促進についても、大いに参考となった。東京・日本よりも社会的に多くの課題を抱えていると思われる都市で、先進的な取り組みが推し進められている様を目の当たりにし、関係者から説明を伺うことができたことは、得がたい経験となった。

さらに、再生可能エネルギーについて高い目標を掲げ、実現に向けて法整備や具体的取り組みを推し進めているドイツ、その中でも電力自由化よりも以前に、市民出資で送電網を買い取り、今では、送電、発電、そして再生可能エネ

ルギー機器の設置促進にまで取り組む市民電力会社があるシェーナウを訪問し、そこでかつて大きな変革を実現し、現在もなお維持拡大している取り組みに実際に携わる方々と直接話げできた。

このことは、その話の内容ももちろんだが、意識やモチベーションの点でも、感銘を受けた。自らの行動の成果に満足してとどまるのではなく、絶えず改善、拡大を続け、自分たちは子ども達の未来のために良いことをしている、と語る姿には、感ずるところが大変大きかった。

再生可能エネルギーは、燃料を他国から輸入する必要のない、しかも個人が参加し推進することのできるエネルギー政策である。

地方自治体である東京都においても、エネルギーシフトへの取り組みを一層推進すべきであるし、また、できるとの手応えを感じる事が出来た。

本報告書に記した調査で終わりではなく、引き続き都内外の識者や先進事例をも調査研究し、都民生活の向上にしっかりと生かしていきたい。

事前の準備から訪問まで、お世話になった皆さまに心から御礼申し上げるとともに、貴重な研鑽を積む機会を頂いたことに感謝して、報告の結びとする。